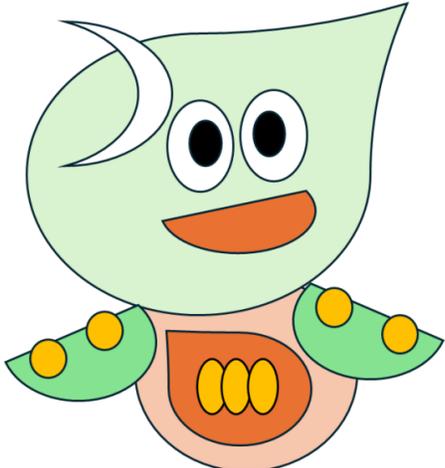
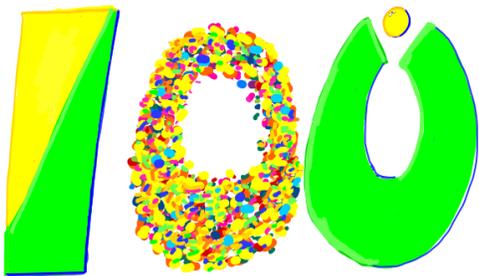
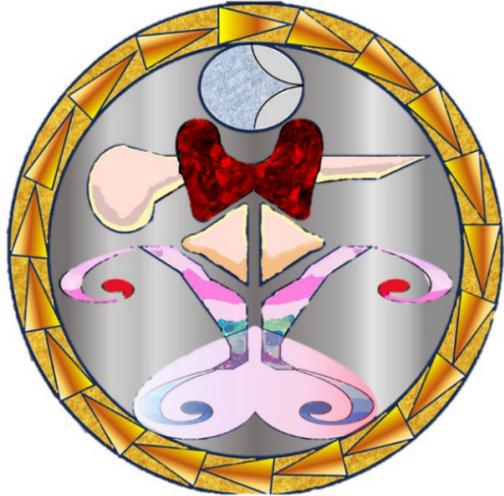
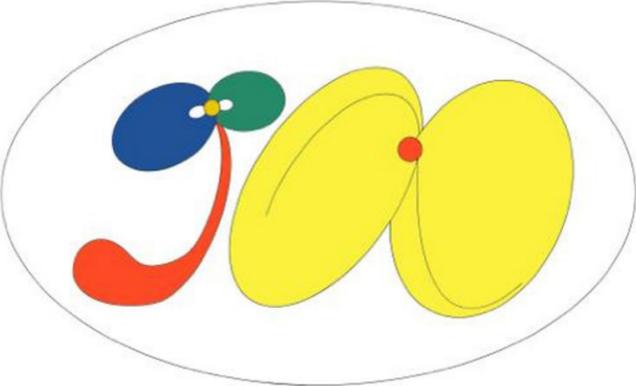


No.	ロゴ	作品の説明
001		<p>「日本らしさ」として富士を背景に。 「変化の時代」なので、鶴が荒波に向かう・挑む感じで。 桜は柔らかいイメージとして追加。 「100」の数字には「丸」が含まれるので、丸囲み。これも柔らかい感じとして。</p>
002		<p>伝統的な雰囲気を出すために金色と緑色をメインに配色した。外枠の金色の矢印はホルモンのフィードバックを表現した。内分泌学の分野は未解明な部分が多く、その事を黒色で表現した。その中でも先人たちの努力により内分泌学が徐々に解明されてきた経緯を中央の100に白色の枠と反転陰影を付ける事で表現した。ホルモンのネットワークを円弧で表現した。</p>
003		<p>海の彼方の水平線から昇る太陽をイメージしています。End”o”crineの中央に位置する”o”を太陽に見立て、その太陽から放たれる多数のカラフルな円は、多種多様なホルモン分泌を表現すると同時に、「希望」の象徴である虹をイメージしています。“End”と”crine”の文字は内分泌学会のロゴの色で、“100”は金色にしています。内分泌学会のこの100年の功績をたたえるとともに、次の100年でさらに光り輝くことを祈念しています。</p>
004		<p>Japan Endocrine Societyの頭文字を基本とし、Eを知恵の象徴である蛇とし、Jに巻き付くようにしました。色やラインのスムーズさは、専門家の修正が必要と思います。</p>
005		<p>みんなで作り上げる!みんなで参加!みんなで盛り上げよう!という気持ちでこめて、作成しました。眼が100周年、頭は下垂体、羽は甲状腺、橙色の副甲状腺、体幹は副腎や消化管、その中の三連丸は膵臓や脂肪等のイメージですが、最近は、内分泌機能は多岐にわたるので意味付けは大変です。できると枝豆みたいになったので、まめまめしく働くのも、内分泌にあってる?日本内分泌学会はこれからも羽ばたき続けます!よ!</p>

006		<p>内分泌代謝学という分野から学会が創設され100年の間、多くの方々の絶え間ない努力と熱意が積み重なってきたからこそ、この輝かしい発展があったことと思います。年輪を刻むように粛々とそれらを積み重ねてきたことに敬意を持って、内分泌学会のシンボルマークの形状と色調をベースに、100周年の100の数字を白色で組み込み、積み重なって見えるようにデザインしました。</p>
007		<p>100周年の「100」を使って、イカダで物を運んでいるようなデザインにしました。臓器にホルモンを運ぶイメージと、100周年を新たなスタートラインとして研究を進め研鑽を積み未来へ進むイメージです。健康や明るい未来のイメージで文字は黄色を基調としました。</p>
008		<p>細胞から分泌される様々な「ホルモン」をイメージして作画しました。細胞はただの箱ではなく、ひとつひとつ個性があり性格があるものであると考え、人間と同じような顔をつけました。また、内分泌学必須の概念である「受容体」を両腕に見立てて細胞につけました。「内分泌学」は「循環器学」や「消化器学」と比較して一般社会での認知度は低いと考えられ、その理由の一つは一つの臓器に限定されるものではなく体全体の細胞が関連していることだと考察します。逆にそれは「内分泌学」の強みや特徴でもあり、そのことが一般の方にもわかるようなロゴマークを意識しました。ホルモンの標的臓器として重要な心臓をシンボルとしてホルモンの集合体で描きました。全体像としては植木鉢のようにも見え、樹木のように今後内分泌学会のさらなる発展を示唆しています。</p>
009		<p>「100」の真ん中にある0は様々なホルモンを表現しています。端にある0は「受容体」と「受容体に結合する1つのホルモン」を表しており、内分泌学の重要な概念を包含しています。インスリンやグルカゴンなど対になる、相反する作用を持ち合わせるホルモンもあることから1は敢えてバイカラーにしました。ひと目見て100周年ということが認識できるような100という数字を強調しました。</p>
010		<p>数字の100のうちゼロ2つを細胞に見立てています。数字100の下の2本の曲線は血管をイメージしており、緑色の丸はホルモンです。細胞からホルモンが分泌され血流によって流れていく様子を表しています。また数字の上の緑色三角形もホルモンですが、これは左の細胞から右の細胞へとホルモンが傍分泌される様子を表しています。さらに右側にある緑色六角形もホルモンで、これはホルモンが自己分泌される様子を表します。以上のように数字の100の数字の中に内分泌のイメージを散りばめて、日本内分泌学会創設100周年をイメージしています。ホルモンが分泌されていく流れは、日本内分泌学会が創設されてからこれまでの100年間と、そしてこれらもその流れが続いてほしいという思いも込めています。</p>

011		<p>格式ある内分泌学会の伝統と気品を表現するために、レトロモダン調を意識しました、 全身における多様なホルモンとその相互作用、内分泌腺や標的臓器をイメージし、分子・レセプター・シグナル伝達などを、さまざまなカラー、点、線、形、幾何学模様を用いて表現しました。内分泌学会のロゴマークを中央に配置し、次の100年に向けた未来ある創造と革新＝「日の出」として右側に配置しています。</p>
012		<p>金と青の円が交差するデザインは、内分泌系が体内のバランスを保つ役割を象徴し、学会がさまざまな分野の知識や技術を融合させてきた歴史を反映しています。再生医療や老年医学など多岐にわたる分野での貢献を踏まえ、次の100年に向けた成長と進化を表現しました。また、メビウスの輪を想起させる形状で、絶えず新しい知見を取り入れ、無限の可能性を秘めて発展し続ける姿勢を示すことで、学会の今と未来への展望を描きました。</p>
013		<p>内分泌学会をイメージし、頭は松果体、右腕から左腕は膵臓、上半身は甲状腺、腹筋は副腎、下半身から下は卵巣、子宮、精巣をイメージしています。足のような、馬のような何かに乗っているようにも見えますが、未来へと運んでくれる鳥に乗っているようにも見えます。ちなみに一番下のハートは陰嚢ではなく下錐体をイメージしています。次の100年を見据え、弓を弾くように膵頭部が筋肉隆々の右腕にも見え、膵尾部は弓先のようにも指先のようにも見えます。未来を指し示し、松果体も力強く未来を見つめています。100周年記念ということで豪華に周囲にはgoldの模様をあしらえ、この矢印も無限大を示すように時計回りに配置されています。背板silverをイメージしてデザインしました。明るい未来を示唆しています。</p>
014		<p>こちらのロゴは、貴会のWebサイトに記載されている「学会の目的および事業」と創設100周年特設Webサイトを参考に作成しました。100年続いた学術の尊さを筆文字の「百」で表し、筆跡と色彩の明度に「福祉」と「細胞」の柔和なイメージを込めました。また広報素材にある「100年の矜持、挑戦そして創造」という言葉より、「細胞からホルモンが出ており、それらが未来へ向かう様」も描写しました。こちらは100周年を迎えた後も挑戦と創造を行う姿勢を表しております。</p>
015		<p>"100を模したデザインで、1は若葉を、00はインフィニティをモチーフにした。 双葉は日本内分泌学会のシンボルマークになっている。 100周年を迎えても、新しい芽がたくさん芽生え、この先も永遠に続いていけますようにと思いを込めた。"</p>